平塚の
石仏めぐり
28、八幡編

泉蔵院 弘法大師 光明真言塔

八幡の石仏

八幡は相模川右岸の砂丘列に開け、旧大野町の南東部です。天保 12 年 (1841) 刊『新編相模國風土記稿』によれば、戸数は 117 戸と記され、旧県道平塚厚木線沿いに古くからの集落がありました。主要道路としては、南北に八王子道（厚木道）が縦断し、坂戸から伊勢原に向かって糟屋道が通っています。

昭和 35 年 (1960) 頃になると、相模川の河川敷を開いた田や畑地は、工業地帯となり、かつて畑作を中心とした農業地域は工場や住宅地へと変わりました。

神社は平塚新宿、馬入とともに総鎮守として平塚八幡宮と、小鎮守として明治初年に牛頭天王社から改称した八坂神社の二つの神社を祀っています。また、洪水で溢れた相模川の水が稲荷社のところで止まったといわれのある川除稲荷があります。

寺院は浄土宗の長善寺と真言宗の泉蔵院の二寺で、ともに相模川の度重なる大洪水で現在地に移転しています。

八幡の石造物総数は 69 基と少なく、主に長善寺 15 基、泉蔵院 21 基、川除稲荷 8 基の三か所に集中しています。

なかでも、長善寺と川除稲荷にある胎金両部大日と蘇悉地の三種字【𑖀・𑖁・𑖂】を主尊とする庚申塔は珍しく、市内には 2 基のみで、関東地方には 34 基存在しています。

また、八幡は昭和 20 年 (1945) 平塚空襲により大きな被害をうけました。神社や寺院でも改修や整備が行われ、昭和 40 年 (1965) 以降の石造物が半数以上を占めています。

石仏豆知識 22. 薬師如来

薬師如来は東方にある極楽浄土瑠璃光世界の教主で、菩薩として修行中、人の生存を全うし、衣食住の生活を安穏にし、病苦不具などをはらうとして十二の大願（光明普照、除病安楽、苦悩解脱、美衣満足など）をたてました。このことから万病を癒し、人の寿命を伸ばし、医薬を司るなど現世利益をもたらす仏として早くから信仰されました。

日光菩薩、月光菩薩を脇侍とし、十二神将を眷属とします。経典に明確な像形が説かれていないため古くは施無畏印、与願印を結ぶ通仏相でしたが、平安時代以降は左手に薬壷を持つ例が圧倒的に多くなり現在に至っています。

有名な奈良県の薬師寺は天武天皇が皇后の病気平癒を祈願して発願したもので、金堂の本尊として薬師如来が祀られています。

石仏としてわが国で最も古いとされる石位寺（奈良県桜井市）の三尊仏は寺伝で薬師三尊といわれています。奈良市高畑町の頭塔で東面に配されたものは薬師三尊と考えられています。

江戸時代も薬師信仰は盛んで、「朝観音・夕薬師」という風習があり毎月の観音の縁日 18 日は朝、薬師の縁日の 8 日には夕方、参詣する風習がありました。

平塚市内には 6 基の薬師如来があり、像容のあるものが 2 基、文字塔が 3 基、石祠が 1 基です。像容は真田の天徳寺境内与一堂の明和 9 年 (1772) 銘と、中原の日枝神社にある年代不詳の坐像です。

文字塔では八幡の泉蔵院に新旧の同型同銘文の 2 基があります。正面に薬師如来の種子【𑖀】に文字で「薬師如来」、左面に「庚申供養」とある庚申信仰も兼ねた珍しい石塔で宝暦 12 年 (1761) の建立です。

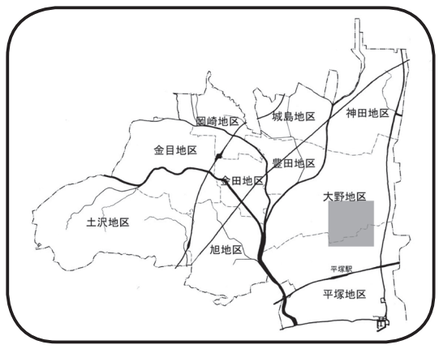
土屋路傍にある石祠型は、正福寺跡地があったところで昭和 43 年 (1968) の造立です。

中原 日枝神社
薬師如来（年代不詳）

八幡の石仏所在地と主な石仏

番号	名　称	住　所	主　な　石　仏
1	尼沼路傍	宮松町 15-23	地蔵
2	長善寺	東八幡 1-17-32	徳本名号塔、庚申塔、阿弥陀如来、供養塔他
3	八坂神社	東八幡 2-6-5	道祖神、手水石他
4	上町路傍	東八幡 2-11-20	宝篋印塔、地蔵、馬頭観音
5	川除稲荷	東八幡 3-1	庚申塔、石祠、馬頭観音他
6	泉蔵院	東八幡 4-10-12	薬師如来・庚申塔、灯籠・不動明王、光明真言塔、地蔵他
7	田端路傍	西八幡 3-1-35	馬頭観音
8	八幡坂戸墓地	西八幡 3-1-50 北	地蔵、六地蔵
9	坂戸路傍	西八幡 3-4-44	馬頭観音・道標、馬頭観音

※ 当ガイドマップに記載されている石仏の基数は令和 3 年集計時点のものです。



石仏めぐりを行う場合の心掛け

石仏は、古来より多くの人々がさまざまな願いをこめて手を合わせ祈ってきたものです。今でも信仰の対象とされているものも数多くありますので、見学に当たっては、敬いの心を持って接しましょう。

また、お寺や神社など石仏の管理者がいらっしゃる場合は、石仏を見学する旨一声かけてから見学しましょう。

平塚の石仏めぐり（ 28. 八幡編）
発行日：令和 7 年 2 月
編　集：石仏を調べる会
発　行：平塚市博物館
住　所：神奈川県平塚市浅間町 12-41
電　話：0463-33-5111

尼沼路傍の交通安全地蔵　（地図番号①）

駅から北に向かう尼沼の道路脇に地蔵が祀られています。前に添碑があり、昭和 51 年 (1976) にこの付近の交通事故で 3 件の死亡があり、その供養と交通事故撲滅のため交通安全協会や自治会などが協力し建立したとあります。

地蔵は六道を巡り様々に姿をかえて人々を救うといわれます。お盆の供養で卒塔婆（そとうば）が立てられており、事故防止を願って地元の人々がお参りして下さっています。

地蔵（昭和 51 年）

長善寺の石仏 (1)　（地図番号②）

称名山快樂院と号す浄土宗のお寺で、本尊は阿弥陀如来です。古くは相模川近くの古川電工の敷地内にありましたが、洪水により現地へ移りました。今でも古川電工の辺りは寺地（てらち）と呼ばれています。

徳本名号塔　本堂へ向かう参道左手に高さ 270㎝の大きな塔があります。

文政年間 (1821 ～ 1829) に造立されたもので、正面に「南無阿弥陀仏［徳本］」と独特の書体で刻まれ、左側面には「文政□歳」の銘があります。

徳本名号塔は市内に 27 基あり県内では最も多く、市内の特徴的な石仏といえます。焼け跡が残り下部がはがれ落ちているのは空襲によるものです。

徳本名号塔（文政年間）

庚 申 塔　本堂前に沢山の石仏が並ぶ中、上に擬宝珠（ぎぼし）をのせた高さ 2 m の笠付き庚申塔があります。

正面中央に「奉造立庚申供養二世安樂所」、右に大般若経の偈頌（げじゅ）、上部に梵字【ア バン ウーン】の三文字と日月、下部に三猿が並んでいます。

左右側面に蓮の花が大きく彫られ寛文 10 年 (1670) の銘があります。もとは崖間（かけま）という場所にありました。

庚申塔（寛文 10 年）

また、並びの右端に笠付きの塔があります。正面に六臂の青面金剛、上部に日月、下部に三猿が彫られ、寛延 4 年 (1751) に庚申講中により建てられましたが、劣化が進んでおり、この先わからなくなるかもしれません。

供 養 塔　力士伊勢ケ埼の供養のため文政 11 年 (1828) に建てられた兜巾型の文字塔です。

中台に「伊勢ヶ埼 伊勢松」、基礎石にはこの塔を建てた 20 名あまりの力士や世話人の名前が彫られています。

伊勢松は八幡馬鳥家出身の力士で、力比べに塔を担いで落としたので、塔の一部が欠けています。

供養塔（文政 11 年）

長善寺の石仏 (2)　（地図番号②）

そのほかにも馬頭観音や三界萬霊塔、六地蔵などいくつかの石仏があります。

本堂前の石仏群　六地蔵、供養塔、庚申塔など

八坂神社の道祖神　（地図番号③）

八坂神社は八幡単独で祀る鎮守で、地元では「お天王さん」と呼ばれ親しまれています。

バス通りに沿って北側に昭和 41 年 (1966) 造立の文字碑の道祖神が祀られています。八幡にある道祖神はこの文字碑の 1 基だけで、以前は厚木道と糟屋道の「わかれ道」に祀られていました。境内には手水石や日露戦役従軍者の名前が刻まれた古い鳥居の根巻（台座）、鳥居、狛犬などがあります。

道祖神（昭和 41 年）

上町路傍の石仏　（地図番号④）

国道 129 号線の八幡交番前交差点を西に入った付近、住宅の門の脇に生垣で囲われ、きれいに手入れされた 4 基の石仏群があります。小さな宝篋印塔、地蔵 2 基、馬頭観音が並んでいます。

子育て地蔵　中央の 2 基が子育て地蔵です。右の背の低い地蔵が先代で享保 14 年 (1729) 造立。左の地蔵は造立年が風化で読み取れませんが「二見作左エ門　再建」と銘があります。また隣の宝篋印塔の銘に「弘化二年　二見作左エ門　再建」(1845) とあるため、左の地蔵もその時期に再建されたものと思われます。

宝篋印塔　弘化 2 年 (1845) に再建されたものです。八幡では唯一の宝篋印塔で、高さ 93cm の比較的小さな塔です。

基礎部左面に「寛保元酉天志　菩提　八月廿□日」(1741) とあり、これが元の塔に関する事柄と思われます。

宝篋印塔で寺社境内以外の路傍に安置されている例は市内では 2 基で、他には土屋の杜鵑山（とけんやま）の宝篋印塔があります。

宝篋印塔（弘化 2 年）、地蔵（左 年代不詳、右 享保 14 年）

川除稲荷の石仏　（地図番号⑤）

縁起書によれば、天文 19 年 (1550) 豪雨による相模川の大洪水で堤防は決壊してしまい、里人たちは小高くなった場所に集まって神仏の加護を求めたところ水難が去ったため、この地に川除（かわよけ）稲荷を祀ったとされています。この稲荷脇に 7 基の石仏群があります。

庚 申 塔　石仏群の右端にあり、宝暦 4 年 (1754) 造立の庚申塔です。一面六臂の青面金剛が、上手に日月を掲げ、中手は合掌、下手に弓矢を持っています。上部には梵字【ア バン ウーン】の三文字が、右側面には庚申塔建立の目的が刻まれています。

三猿像は正面下にあり横向きで、分かりにくいですが、左の不言、中の不聞、右の不見の各猿が全て片手で押さえているように見えます。

庚申塔（宝暦 4 年）

馬頭観音　嘉永 4 年 (1851) の造立で、頭に馬頭を戴き、両手で馬口印（まこういん）を結ぶ高さ 35cm の一面二臂の坐像です。

八幡には 7 基の馬頭観音がありますが、江戸期のものは 2 基です。この付近は本宿、新宿が近く物資輸送が多く、使役の馬の供養塔として造立されたと思われます。

馬頭観音（嘉永 4 年）

泉蔵院の石仏 (1)　（地図番号⑥）

泉蔵院は高間山（こうま）無動寺と号す高野山真言宗の寺院です。境内掲示の縁起によると、応永 5 年 (1398) 儀円大僧正の開山創建とされます。また、元は八幡小字高間に在りましたが、天正年間、相模川の氾濫により現在地に移転したとされています。

山門を入りすぐ右手に、右側から地蔵、石尊常夜灯、光明真言塔、薬師如来塔が建てられています。

薬師如来 庚申塔　宝暦 11 年 (1761) 造立の高さ 106㎝の兜巾型塔で、劣化が進んだため近年同型、同銘文の新たな塔が元の位置に建てられ、本塔は参道の反対側に移し替えられました。

かつて焼失した薬師堂内にあった弘法大師作と伝えられている薬師如来像の供養塔とされています。

また塔の左面には「庚申供養」ともあります。

薬師如来 庚申塔（宝暦 11 年）

灯　籠　正面に「奉献燈明石尊大権現不動明王　大天狗」と刻まれた安永 8 年 (1779) に造立された高さ 99㎝の笠付型の塔です。

石尊とは、江戸時代の記録によると、大山の山頂には石尊社があって

灯籠（安政 8 年）

泉蔵院の石仏 (2)　（地図番号⑥）

阿夫利神社のことだと記されており、大山信仰に関連して奉納された塔です。石製の大山灯籠は、他に土屋遠藤原（えんどっぱら）に 1 基あります。現在は木製の大山灯籠が主体で、貴重なものです。

弘法大師 光明真言塔　天 保 11 年 (1840) に建立された高さ 104㎝の櫛型の塔です。

光明真言は陀羅尼（だらに）の一種で、大日如来に知恵と慈悲を求める意味を持っています。

塔の上部には弘法大師像が浮き彫りされており、右面には弘法大師を示す「南無大師遍照金剛」と刻まれています。

弘法大師 光明真言塔（天保 11 年）

地　　蔵　江戸時代前期寛文 10 年 (1670) の造立です。江戸時代中期以降の地蔵と比べ、錫杖が短かったり、耳が大きいなど素朴な見た目です。

塔正面には「二世安楽」の銘文があり、台座正面には 11 人の女性の名が刻まれていることより、この女性達が、現世と来世の安楽を願い、建立したことが分かります。

地蔵（寛文 10 年）

田端路傍の馬頭観音　（地図番号⑦）

旧 129 号線の拡幅工事により、道路の西片隅に集められた 3 基の馬頭観音が祀られています。

左の塔は駒型の文字塔で、正面に聖観音を現す梵字【サ】と「馬頭観世音供養［塔］」、左面に「昭和十三年五月吉□造立 施主 金子徳治郎」(1938)、中央は像容が損傷した馬頭観音像と「□原九［右エ門］」、右の塔は自然石に「馬頭観世音 原田」と刻まれており、それぞれ亡き愛馬を供養して造立されたようです。

馬頭観音（左 昭和13年、他 年代不詳）

坂戸路傍の馬頭観音 道標　（地図番号⑨）

「二ツ屋の道標」と呼ばれ、さくら通りを北上し、第 2 歩道橋南交差点を左折した糟屋道の左側にあります。

造立は嘉永 3 年 (1850)、像高 36cm の馬頭観音が角柱型の道標に乗っています。馬頭観音坐像は三面六臂で馬頭を頭上に戴き、道標正面には「あつきミち」、右側面に「大いそ」、左側面は「八まんま［へ］」と彫られています。

馬頭観音 道標（嘉永 3 年）

道標造立は功徳を積む目的がありました。